

令和元年度 記者懇談会（第2回）の記録

- 日 時 令和元年5月30日（木）午後3時30分
場 所 水道庁舎4階 会議室
記者数 9人
同席者 飯川副市長、若山副市長、総務部長、教育部長、生涯学習・文化・
スポーツ振興課主幹
次 第 1 令和2年度岩見沢市職員採用候補者試験（前期日程）の実施について
2 ウィルチェアラグビー日本代表の岩見沢合宿について
3 その他



令和2年度岩見沢市職員採用候補者試験（前期日程）の実施について

説明内容

（市長）

昨年度から大卒者を対象とした前期日程試験を新たに設け、優秀な人材の確保に努めているところですが、今年度も前期日程として大卒者の事務職と土木・建築の技術職の職員を募集します。

受付期間は、6月3日（月）から6月20日（木）までとしています。

第1次試験は、7月28日（日）、北海道教育大学岩見沢校で実施します。

第2次試験は8月下旬、第3次試験は9月中旬に予定し、最終合格は9月下旬頃を予定しています。

また、後期日程の試験についても例年同様に、高校、短大、大卒者と、社会人枠として民間企業経験者を対象に実施する予定です。

なお、後期日程の詳細につきましては、7月下旬までにお知らせする予定です。

質疑応答

（北海道新聞）

前期日程試験は昨年度に続いて2回目ですね。そこで、昨年度の申し込みや採用の実績を教えてください。

（市長）

昨年度の実績を申し上げます。

事務職が1次試験115人、最終合格12人、受験倍率9.6倍でした。それから、土木の技術職は1次試験7人、最終合格1人、受験倍率7.0倍。建築の技術職は1次試験2人、最終合格1人、受験倍率2.0倍。

全体では、1次試験124人、最終合格14人、受験倍率8.9倍という実績でした。

（北海道新聞）

どのような人材をお望みですか。

（市長）

これから行政や環境がいろいろと変わっていく中で、知識も必要ですが、私自身、柔軟な価値観や他人の意見を聴く力、他人の意見を聴いて自分の頭で構想する力、そして、全体を俯瞰する力。何よりも意欲があるということをお前提にしていますが、こういった要素が市職員に必要なようになってくるのではないかと考えます。

ウィルチェアーラグビー日本代表の岩見沢合宿について

説明内容

(市長)

2016年リオデジャネイロパラリンピックにおいて銅メダルを獲得し、さらには2018年8月にオーストラリアで開催されたウィルチェアーラグビー世界選手権で初優勝した、ウィルチェアーラグビーの日本代表が昨年に続き今年も岩見沢市で強化合宿を行うことになりました。

日本代表の岩見沢合宿は、一昨年10月と昨年9月に続きまして今回が3度目となります。

合宿期間は、6月16日(日)から24日(月)までとなっておりますが、移動日を除いて実際に練習を行う日程は、6月17日(月)から23日(日)までの7日間の予定です。

合宿に参加する人数は、選手16人、スタッフ15人の計31人です。

練習会場は、北海道教育大学岩見沢校の第3体育館、宿泊先は、昨年の合宿でも選手・スタッフから好評でした、ログホテルメープルロッジになります。

合宿期間中のスケジュールについては、練習の一般公開日は6月20日(木)と23日(日)の2日間、それぞれ午後から予定されています。

一般公開日には、申し込み等は不要であり、時間内であれば自由に見学をしていただけます。

また、昨年同様、体育館アリーナの床清掃をしていただけるボランティアを募集します。

床清掃は、一般公開日となります20日(木)と23日(日)に予定しており、滑り止めとして選手が使用する松ヤニの拭き取り作業を行うものです。

募集人数は40人ほどでありまして、ご参加いただける方は6月18日(火)までに市教育委員会へお申込みをお願いします。

質疑応答

(北海道新聞)

16人の選手は、昨年の世界選手権に出場されていた方々か、または控えの選手のどちらでしょうか。

(教育部長)

正式に発表されていません。

(読売新聞)

ウィルチェアーラグビーの日本代表が岩見沢を合宿地に選ぶほど評価している点はどのようなところでしょうか。そして、今回3回目ということですが、これまでの合宿で地元の子どもたちにウィルチェアーラグビーを教えてくれる教室が過去に開かれたことはありますか。また、今回、そのようなプランがあるかどうか教えてください。

(市長)

まず、日本代表の池崎選手の出身が岩見沢高等養護学校であるということが一つのご縁となっています。そのほか、北海道教育大学岩見沢校の第3体育館が新しく整備されたことにより練習環境がとても整っていること、大学生や市民ボランティアによるフォロー環境が良好であること、宿泊先であるログホテルメープルロッジがオールバリアフリーの宿泊施設であることから練習後もゆったりとした環境の中で合宿を過ごすことができること。こういったことが評価されていると思っています。

それから、子どもたちとの触れ合いは、体験会などにより行っているということです。

また、9月28日(土)・29日(日)の2日間は、第21回日本選手権プレーオフが、北海道教育大学岩見沢校 第3体育館で開催される予定もあります。

あと、ウィルチェアーラグビーの合宿とは別の話ですが、8月1日(木)から6日(火)までの日程で、車いすフェンシングのサーブル種目(上半身の突きと斬り)の強化合宿が予定されているところです。練習会場はいわなびの武道場を、宿泊先はいわなびに近いホテルサンプラザを予定しています。

その他

質疑応答

(NHK 札幌放送局)

昨日(5月29日)開催されたJR室蘭線活性化連絡協議会で、利用促進費の一部を地元自治体が負担することを了承されましたが、その受け止めと今後取り組んでいきたいことがあれば教えてください。

(市長)

基本的には、法改正を含めて、令和3年度(2021年度)からどのように抜本的な対策が取れるのかということが重要だと思います。そして、それに向けて必要な支援の2年間だと受け止めています。

大きな方向性については、北海道と沿線自治体が負担し合って、利用促進や、利便性、定時性など快適性の向上のための経費が主だと受け止めています。

それから、今年4月には各線区ごとのアクションプランが公表されていますので、基本的にはそのアクションプランと整合を図った、連携した取り組みを進めて行くことが重要だと思います。

(NHK 札幌放送局)

昨日の会議に出席できませんでしたので恐縮ですが、会議の場では路線を維持するという方向でまとまっているということによろしいですか。

(市長)

JR 室蘭線活性化連絡協議会を設置したとき、JR 室蘭線は維持・存続することで確認していますので、それに向けた第 1 ステップとして、地域で支援していくことを改めて確認し、このことに異論はありませんでした。

(NHK 札幌放送局)

具体的な負担額はどうなりそうですか。

(市長)

金額は提示されていません。

抜本的な法改正に向けての 2 年間の対応をどうするのかということでした。

(北海道新聞)

5 月 22 日、東京都で開催された ICT 活用全国首長会議で市長がご講演されたと伺いましたが、お話しされた内容や他地域の反応を教えてください。

(市長)

ICT 活用全国首長会議は、事業構想大学が主催者となり、5 月 22 日午後 3 部構成で開催され、登壇した首長は私を含めて 6 人でした。

そこでは、それぞれの首長が事例発表を行い、私はスマート農業など産業分野での ICT 活用、その目指す方向や取り組みを講演させていただきました。

私どもは、農業だけではなく「農・食・健康」として、新たな地域サービスの担い手の展開や、産・官・学・金それぞれのリソースをお互いに発揮すること、そして、未来の姿を明確にし、それに向けて今必要なことを着実にやっていくということ、また、その加速化、社会実装を目指していきたいということを話してきました。

他には、情報発信などいろいろな分野の講演があり、参加者も 200 人以上いたかと思いますが、興味深く聞いていただけたかなと感じています。

(北海道新聞)

5 月 28 日、川崎殺傷事件という痛ましい事件があり、道内の自治体では改めて通学路の安全確保に取り組んでらっしゃるところですが、岩見沢市ではどのような対策をお考えですか。

(市長)

ニュースを見て、驚き、悲しみ、そして怒りを感じました。

岩見沢市でこのような事件が起きないようにするためにはどうしたらいいか。

それは深く考えざるを得ないことではないでしょうか。

まずは、学校での安全に対する取り組み。それと、共通認識を持ちながら、地域での取り組みにより、いかに多くの目で子どもたちの安全を守っていけるのかということが重要になると思います。

それから、行政、学校、保護者や地域だけではなく、関係機関、特に警察と連携する必要があると考えています。

ちょうど今日の午後 5 時から校長会が開催される予定で、会議には岩見沢警察署も参加して下さるということです。

学校、警察、行政が意見を交換し、子どもたちの安全を少しでも高められるような取り組みをしていきたいと思えます。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)